

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国防・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道4号 <small>さんぼんぎふるかわ</small> 三本木古川拡幅 起終点 自：宮城県黒川郡大衡村 <small>みやぎ くらかわ おおひらむらわらびさき</small> 蕨崎 至：大崎市古川荒谷字新竹 <small>おおさき ふるかわあらや しんたけのはな</small> の花 事業概要 三本木古川拡幅は、大衡村及び大崎市内の交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的とした4車線拡幅事業である。 S41年度事業化 S58年度都市計画決定 S42年度用地着手 S43年度工事着手 全体事業費 229億円 事業進捗率 93% 供用済延長 14.2km 計画交通量 27,800台/日	事業区分 ：一般国道 事業主体 ：国土交通省 東北地方整備局 延長 ：16.1km 費用対効果分析結果 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">1.3</td> <td style="width: 20%;">総費用 (残事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">17/642億円</td> <td style="width: 20%;">総便益 (残事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">56/852億円</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>3.3</td> <td>事業費</td> <td>13/604億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>44/798億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>維持管理費</td> <td>4.6/38億円</td> <td>走行経費減少便益</td> <td>12/49億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益</td> <td>0.14/4.8億円</td> </tr> </table> 感度分析の結果 【残事業】 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.6(交通量 +10%) B/C=2.9(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=3.0(事業費 +10%) B/C=3.5(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=3.2(事業期間 +20%) B/C=3.3(事業期間 -20%) 事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） ・安全で安心できるくらしの確保（三次救急医療施設へのアクセス向上が見込まれる）他9項目に該当 関係する地方公共団体等の意見 三本木古川拡幅は道路混雑の緩和や交通事故の削減、災害時等における代替路線機能の強化、産業振興の支援等につながることを期待されており、大崎市市長を代表者とする国道4号拡幅改良（4車線）建設促進期成同盟会等より整備促進の要望（平成20年10月20日）を受けている。 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率は93%であり、現在、用地買収を推進している。 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成15年度の再評価以降、事業進捗に係る問題はなく、順調に事業を進めている。平成20年代中頃に残りL=1.9kmの4車線化供用を予定している。 施設の構造や工法の変更等 L型側溝に新技術（スリップフォーム工法）を採用し、コスト縮減を図る。 歩車道境界ブロックに経済的な長尺製品を使用し、コスト縮減を図る。 対応方針 ：事業継続 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 事業概要図	B/C (事業全体)	1.3	総費用 (残事業)/ (事業全体)	17/642億円	総便益 (残事業)/ (事業全体)	56/852億円	(残事業)	3.3	事業費	13/604億円	走行時間短縮便益	44/798億円			維持管理費	4.6/38億円	走行経費減少便益	12/49億円					交通事故減少便益	0.14/4.8億円
B/C (事業全体)	1.3	総費用 (残事業)/ (事業全体)	17/642億円	総便益 (残事業)/ (事業全体)	56/852億円																				
(残事業)	3.3	事業費	13/604億円	走行時間短縮便益	44/798億円																				
		維持管理費	4.6/38億円	走行経費減少便益	12/49億円																				
				交通事故減少便益	0.14/4.8億円																				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。